

さいたま市緑区におけるミズオオバコ (*Ottelia alismoides*) の記録

志賀弘貴 (株環境指標生物)

はじめに

ミズオオバコ (*Ottelia alismoides*) はトチカガミ科ミズオオバコ属の沈水性の一年草であり、湖沼やため池、水路、水田などに生育する。国内では北海道から沖縄県まで広く分布する (角野, 2014 ; 大橋ほか, 2015)。

本種は、農薬汚染による生育条件の悪化が指摘されており、環境省の「第5次レッドリスト (植物・菌類)」において、準絶滅危惧 (NT) に選定されている (環境省, 2025)。

埼玉県では、水田や休耕田における農薬汚染や管理放棄などが生育環境を改変する要因として挙げられ、本種は絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に選定されている (埼玉県環境科学国際センター, 2024)。県内における本種の既知の分布情報は、行田市、熊谷市周辺を中心とした加須・中川低地に集中し、飯能市などの丘陵に点在するものの、それ以外の地域からの報告はない (埼玉県環境科学国際センター, 2024)。

今回、これまで分布情報が記録されていなかったさいたま市緑区において本種の生育を確認したので、その生育状況および生育環境について報告する。

調査地および調査方法

2025年8月23日に埼玉県さいたま市緑区の水田を踏査した。この水田は無農薬で年2回耕耘されている。入水は5月、落水は9月で、草刈りは2週に1回程度実施されている。なお、生育地保全のため、本報告における詳細な位置情報の表記は伏せる。

踏査中に本種と思われる植物を確認したため、デジタルカメラ (OLYMPUS OM-D E-M10 Mark IV) で撮影し、生育状況を記録した。また、生育環境を把握するため生育地周辺の踏査を行い、生育する維管束植物を記録した。

種の同定は、角野 (2014) および大橋ほか (2015) に従い、外部形態の観察に基づいて行った。なお、本種は類似種が少なく同定が

容易であること、また、生育地保全の観点から、標本の採取は行わなかった。

結 果

1) 生育状況

耕作中の水田の畦畔沿いに約20株が生育しており、開花個体も確認された (図1)。確認時、生育地は湛水状態が維持されていた。

生育地周辺ではオモダカ (*Sagittaria trifolia*)、ケツユクサ (*Commelina communis* f. *ciliata*)、イボクサ (*Murdannia keisak*)、コナギ (*Monochoria vaginalis*)、ヒメクグ (*Cyperus brevifolius* var. *leiolepis*)、チゴザサ (*Isachne globosa*)、ケキツネノボタン (*Ranunculus cantoniensis*)、キカシグサ (*Rotala indica*)、チョウジタデ (*Ludwigia epilobioides*)、ヤノネグサ (*Persicaria muricata*)、キクモ (*Limnophila sessiliflora*) などの湿生植物が確認された。



図1. 本生育地におけるミズオオバコ

2) 種の同定

外部形態を観察した結果、花弁は白色から桃色で3枚、茎は短く葉は根生し、葉身は薄く広卵形で長さ約15 cm、幅約10 cmなどの特徴からミズオオバコと種同定した。

考 察

今回、さいたま市緑区において本種の生育を確認したことは、埼玉県内における都市近

郊の分布情報を補完する重要な知見である。本記録は、県南部の平野部における記録としては、初めてのものであり（埼玉県環境科学センター，2024）、都市近郊においても本種の生育に適した水域が小規模で残存していることを示唆する。

水田雑草は耕耘に適応しており、湿性の二次遷移初期を好む植物である（伊藤，2002）。ミズオオバコのほかに本生育地で確認されたオモダカ、コナギ、キクモなどはいずれも典型的な水田雑草である（浅井，2015）。本生育地は年2回の耕耘が行われており、こうした攪乱がこれらの植物の生育を支えている可能性がある。さらに、本種は農薬に弱いことが知られており（環境省，2025；埼玉県環境科学センター，2024）、無農薬で管理されている本生育地の環境も本種の生育に寄与していると考えられる。本生育地と同様の管理が行われている周辺の水田では、本種の生育が今後確認される可能性が高いと考えられる。

都市近郊では水田の圃場整備や農地転用による湿地環境の消失が進行している。本種の保全にあたっては、小規模水域の維持管理に加え、生育地の継続的なモニタリングが重要である。

謝 辞

本稿を執筆するにあたり、埼玉県環境科学国際センターの安野 翔博士には、埼玉県内

のミズオオバコの分布状況や、生育地における水田の水管理について有益なご助言をいただいた。合同会社十色およびNPO法人見沼保全じゃぶじゃぶラボの皆様には、調査にご快諾いただいた。㈱環境指標生物の長池智久氏には、本生育地におけるミズオオバコの生育情報をご提供いただいた。埼玉県立自然の博物館外部研究者の古旗峻一氏および内田大貴氏には、現地調査日程の調整や本稿の投稿に関して有益なご助言をいただいた。ここに記して深く感謝申し上げる。

引用文献

- 浅井元朗（2015）植調 雑草大鑑. pp. 42, 46, 49, 58. 全国農村教育協会.
- 伊藤一幸（2002）水田雑草とは何か—植物の水田環境への適応の視点から—. 東北の雑草 2: 1-5.
- 角野康郎（2014）ネイチャーガイド 日本の水草. p. 103. 文一総合出版.
- 環境省（2025）第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物 維管束植物. pp. 5542-5543.
- 大橋広好，門田裕一，邑田 仁，米倉浩司，木原 浩（2015）改訂新版 日本の野生植物 1 ソテツ科～カヤツリグサ科. p. 123. 平凡社.
- 埼玉県環境科学国際センター（2024）埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック植物編（第4版）2024. p. 112.